

2位 春野光一 喫煙歴8年

私達は人との関係においてよく「空気を読む」という言葉を使う。その場のちょっとした心の機微や人との対応関係を読み、その場の空気を悪くしないように心掛けたりする。

私は喫煙者としてタバコを吸う際にもこの「空気を読む」という心掛けがとても大切なのでないかと思う。家庭や公の場所で非喫煙者がいる所で場の空気を読まずに喫煙するという事はあまりにも二重の意味でその場の空気を読まな過ぎではないだろうか？一つはタバコの煙は空気によって拡散するという事。要するに物理的にその場の空気を読んでいないという事。煙は間違いなく空気によって拡散するのだから。その煙が非喫煙者にこうむる被害を完全に無視しているという事実。もう一つは心の、思いやりの問題。非喫煙者の立場にたってみればタバコの煙を受動喫煙する事は耐え難い苦痛を伴うに違いない。とばっちりもいい所なのだ。それはようするに喫煙者がその場の空気を読んでいないという事。相手の立場にたてば自ずとタバコをその場で吸う事は控えなければならない。

私は喫煙者であるにもかかわらず受動喫煙防止法（条例）を支持するのは上記に挙げた二点を守らない人がいる為である。私達喫煙者は非喫煙者の立場にたち、その場の空気をきちんと読み、非喫煙者が受動喫煙をこうむらないようにマナーを守らねばならない。私達喫煙者が楽しくタバコを吸う為にもこれかから非喫煙者に対する心遣いを今まで以上に持たなくてはならないのだ。